

# 明治6年 東雲義校

現在の小学校の場所に初めて建った校舎



現在の場所に最初に建った東野小学校の校舎



めいじ ねん ひがしのしょうがっこう そつぎょう だい だいひがしのむらそんちょう  
明治29年(1896)に東野小学校を卒業され、第22代東野村村長をされ  
せんどうしげよし さい そぼ きい はなし つづ  
た千藤茂美さんが5・6歳のころに祖母から聞いた話を綴ってみえます。

かみくみ そうきゅうじ いたうぜんべい いえ しもくみ わたし そふ せんどう  
上組は宗久寺と伊藤善兵衛さんの家、下組は私の祖父である千藤  
しげもん おし のうぎょう おし しゅうじ  
茂右衛門が教えていました。農業のかたわらで教えていたので習字は

てほん あた じしゅう こ げんき たが すみ  
手本を与えて自習でした。子どもたちは元気で互いに墨のつけあいをしてにぎやかだったそ  
うです。

めいじ ねん しのめぎこう ほっそく めいじ ねん いま がっこう ところ ひらやだていたがき かみ  
明治6年に東雲義校として発足して、明治9年に今の学校のある所に平屋建板葺き紙ばり  
しょうじ こうしゃ わたし めいじ まん さい にゅうがく まん さい にゅうがく き  
障子の校舎ができ、私は明治26年(1893)に満6歳で入学しました。満6歳で入学と決められ  
とうじ さいとしうえ ひと にゅうがく じよし こもり かじ いそ  
ていましたが、この当時は4歳年上の人たちが入学したり女子は子守りや家事が忙がしかっ  
ねん たいがく そつぎょう にん せんせい  
たりして2・3年で退学してしまい、卒業するころには4・5人しかいませんでした。先生も  
せいと わふく ほそ ひも きもの ふゆ はんでん き くつ はれ ひ  
生徒も和服で、細い紐のついた着物で、冬は袴纏を着ていました。靴ではなく晴れの日は  
わらぞうり あめ にち げ た かよ  
藁草履、雨の日は下駄をはいて通いました。

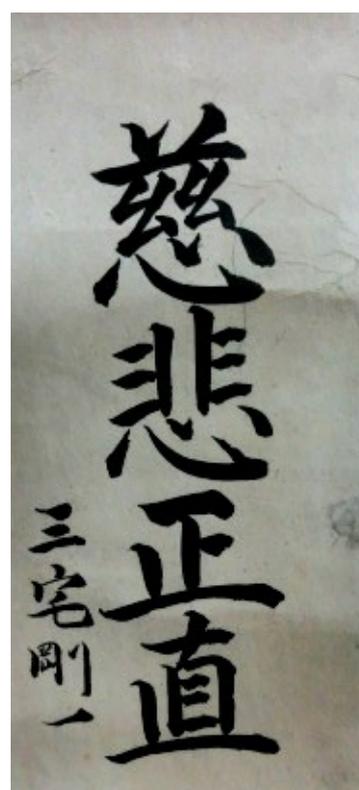
おんがく わたし ねんせい とき おさしましやうがっこう にしおけんきちやうちやう はじ きみがよ  
 このころは音楽はなく、私が3年生の時、長島小学校の西尾謙吉校長に初めて「君が代」を  
 おし ひがしのしやうがっこう おさしましやうがっこう はこ き  
 教えてもらいました。東野小学校にはオルガンがないので、長島小学校から運ばれて来たも  
 つか  
 のを使いました。

うんどうかい まいとし えんそく たびたび いわむらじやうし み い ちか  
 運動会は毎年はありませんでしたが、遠足は度々ありました。岩村城址を見に行き、近くの  
 りよかん で こい みそしる じさん にぎ めし きおく のこ じんじやう ねん そつぎやう おおい  
 旅館で出た鯉の味噌汁と持参した握り飯は記憶に残っています。尋常4年を卒業すると大井の  
 こうとうか にゆうがく とき ひがしの にゆうがく どうきゆうせい めい じよし ひとり  
 高等科へ入学しましたが、その時に東野から入学した同級生は5・6名でした。女子は一人も  
 いませんでした。

めいじ ねん そつぎやう はせがわとしつぐ じんじやうこうとうしやうがっこう のうぎやうほしゆうこうふせつ  
 明治42年卒業(1909)の長谷川俊次さんは尋常高等小学校と農業補習校付設のころを  
 ひがしのしやうがっこう す つづ  
 東野小学校で過ごされましたが、次のようなことを綴ってみえます。

だんし めい じよし めい がっきゆう なつ いいぬまがわ まんぼつづみ すいえい あき やま  
 男子21名、女子7名の学級でした。夏には飯沼川や万場堤へ水泳に行きました。秋には山へ  
 ことり と あそ どうじ こうちやう かなもりせんせい ほか やぐちせんせい  
 「とりもち」で小鳥を捕ったりして遊びました。当時の校長は金森先生で、他は矢口先生、  
 しげはらせんせい ひらやませんせい まつうらせんせい なか やぐちせんせい しはんがっこう そつぎやう  
 茂原先生、平山先生、松浦先生で、その中で矢口先生は師範学校を卒業されたばかりなので  
 げんき しか  
 元気いっぱい、よく叱られました。

はせがわとしつぐ しやうがっこう じどう さくひん  
 【長谷川俊次さんが小学校にいたころの児童の作品 明治36年1903年～明治43年1909年ごろ】



松の葉は緑に  
して針の如し

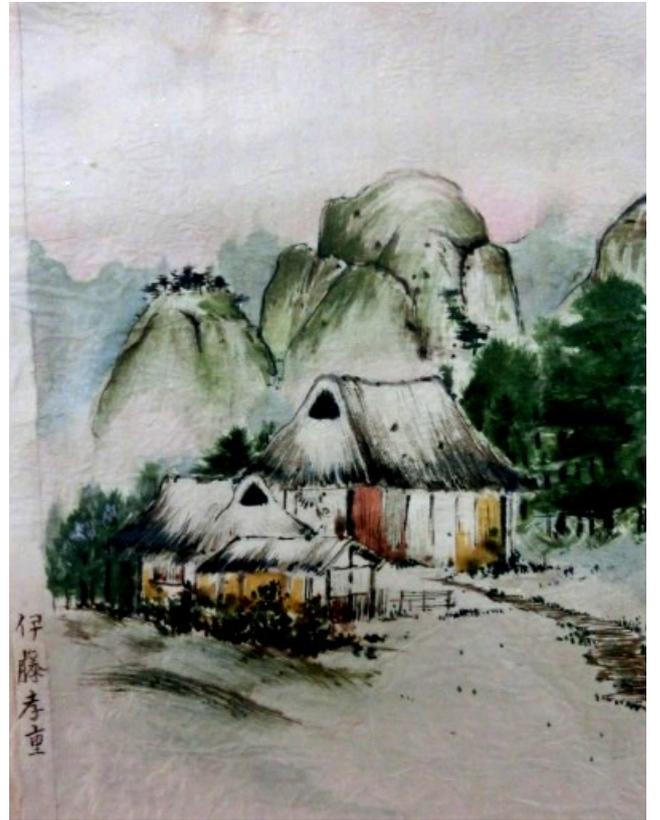
高貳  
本林 碩天

霞間ヶ谷の櫻  
花今満開なり

高等科カニ學年生 鈴木 興助

愈御卒業のよ  
し目出度存候

高貳 長谷川 喜與



# 明治42年(1909)4月の校舎火災

らくせいしきぜんじつ こうしゃぜんしやう  
落成式前日の校舎全焼

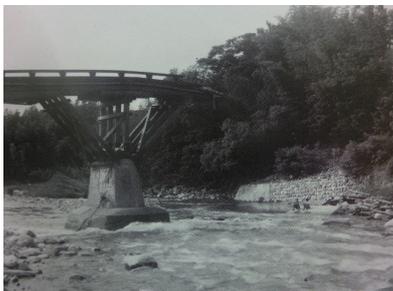
たいしやう ねん そつぎやうせい すずきひろみち つづ きろく あら けんちく かい た  
大正5年(1916)卒業生の鈴木弘道さんが綴った記録には新たに建築した2階建ての  
ひがしのしやうがっこう こうしゃ ぜんしやう  
東野小学校の校舎が全焼してしまったことにふれられています。

めいじ ねん がつにゆうがく しんちく しやうがっこうこうしゃ らくせいしきまぎわ かせい しやうがっこうせいかつ  
明治42年(1909)4月入学のときの新築の小学校校舎の落成式間際の火災から小学校生活  
はじ まよなか はやうち はんしやう め そふぼ ふぼ つぎつぎ  
が始まりました。。真夜中でした。早打ちの半鐘で目をさました。祖父母と父母が次々  
あまど あ かじ かじ さけ わたし つづ で まえ やま  
に雨戸を開けて、「火事だ。」「火事だ。」と叫びました。私も続いて出てみると、前の山  
さんしやくだま にしやくだま はなび う あ あか て だ  
が三尺玉か二尺玉の花火を打ち上げたような明るさで照らし出されていました。したがって  
わたし しやうがっこう ねんせい じゆぎやう そうきゆうじ きおく のこ わたし しやうがっこう  
私の小学校1年生の授業は宗久寺でしたが、あまり記憶に残っていません。私が小学校に  
にゆうがく はしか やす えんそく うんどうかい きおく  
入学するとすぐに麻疹で休んでしまいました。遠足や運動会などはかすかな記憶はあります  
あぎがわ はんらん むかいじまばし りゆうしゆつ きゆうぞう かりばし わた とうこう  
が、阿木川が氾濫して向島橋がよく流出してしまい、急造の仮橋を渡って登校したことは  
おほ わた おおい まわ とうげこう ねん かい  
よく覚えています。それでも渡れないときは大井を廻って登下校を年に4・5回しました。



旧東野郵便局

明治42年(1909)4月20日に焼失した校舎(棟上げ式の様子)



ひだり しやしん  
◀左の写真

おおあめ かわ はんらん なが  
大雨で川が氾濫して流された  
むかいじまばし ようす  
向島橋の様子

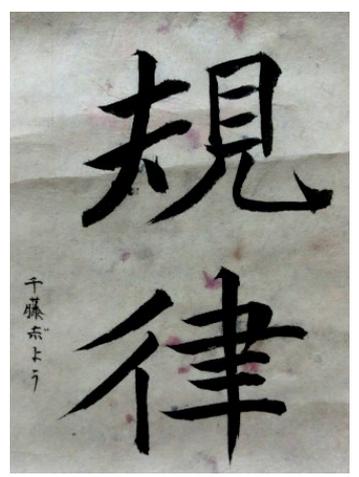
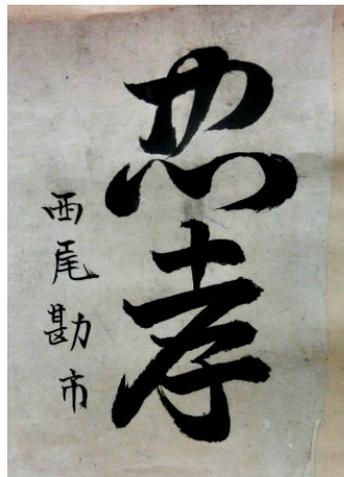
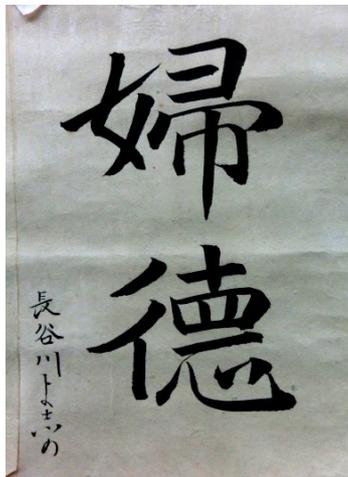
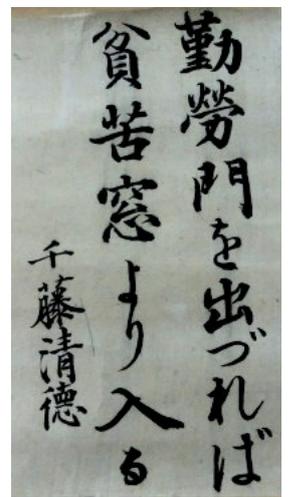
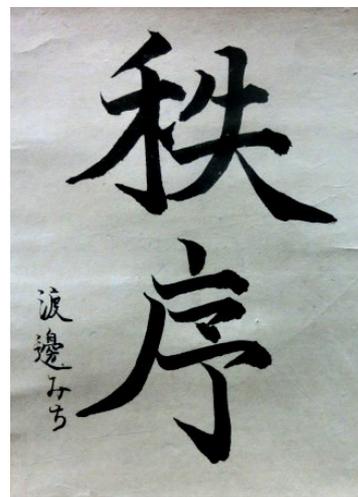
# 卒業写真と作品 明治36年～43年ごろの東野小学校



明治時代の卒業写真



苗木城址に遠足



焼失後に建てた平屋の校舎



富小行く道は勉強  
 小節儉とよのり  
 伊藤梅太郎

博愛 名譽  
 依馬すへの

春の初花 秋の月  
 夏の青葉に 冬の雪  
 移りゆく世の有様に  
 心敬馬くときあらば  
 過ぎし月日を数へつ  
 學の業を勵むべし  
 西尾操

勤勞門を出づれば  
 貧苦窓より入る  
 千藤清徳

朱に交れば赤くなる  
 思ふ念力岩をも通す  
 天はみづから助くるものを助く  
 西尾喜一

東野コミュニティセンター貯蔵

